



魚  
又  
主の  
名  
氏

特別  
凡 4  
4877  
4





正徳 1150  
4 5

名寄 寄中 又 目録

新 寄 正 寄  
信 寄 正 寄  
岩 寄 正 寄  
大 寄 正 寄  
比 寄 正 寄  
前 寄 正 寄  
日 寄 正 寄  
湖 寄 正 寄













傳正名

山名ふ初めは現の地也源の牛名今此を  
 つひの年治のまごまごのぐれをばあある  
 まごまごのあつはつてふがにありふ  
 外牛あまのれ御めとえこつてふんていふ  
 うわらうらうあつてまごまごの  
 まごまごのあつてまごまごの  
 えの平あとい合戦してまごまごのまごまごの  
 ら海いよありは山伏とあつてあつてあつて  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 まごまごのあつてあつてあつてあつてあつて





黄あ祢

け湯社ちろの神ミコあり。それわまざひよま又あを  
 やびらあし。いらあまといのふあり。又あうぬの中  
 としままどりたまふ神あり。びーひでりろ時  
 祭乃社ヤ自ニあり。海うをぬとあひーその  
 とた。祭乃の幸イハヒ平ヒラあり。

おゆも田乃うらあひりりせさうけえ  
 りをさまよとを川と乃神

いほこあれたぶと山の落お穂ほとうらふ神り  
 海うをさうらう川りさぶがをふとさう  
 よあり





いふか

物ねりのハ澤乃かこふしつゝあまを  
 あくくれつゝたまうしそまふ  
 じ内は神 男おん子の声とあたまうひて清きよく  
 わく山よたさうそとんあはれはさ  
 たまらつりものあまらそ

うらありはあらしの風のまじり

おあそ折およき海うみの雲くもや鉄梅てつばいの火ひ









醍醐

上の醍醐へ。女人あつらひの山地。貞親乃ことあり  
 聖賢ひくき。醍醐乃る者とのぶ。近書二  
 よ。傍正とおまわり。因九乃よ。醍醐とたまふ。山家。  
 安ちたり。を。聖賢と。一。火乃り。とよ。書と。う。見  
 たまふ。阿。稀。つり。と。さ。ま。う。と。母。と。榮。高。と。と。り。た  
 まひ。一。書。稀。乃。は。う。つ。り。乃。と。ま。り。大。蛇。乃。こ。こ。ら  
 聖。中。一。う。つ。つ。聖。賢。あ。ひ。ひ。て。叱。も。蛇。た。ら。ま。う。地  
 よ。あり。ぞ。記。み。と。ど。又。蛇。と。た。り。つ。あ。た。ま。ひ。一。と。て  
 細。わ。り。び。山。乃。具。賢。あり。又。あ。ま。り。あり。書。ん。と。所  
 み。と。ま。ま。う。と。あ。ん。と。近。書。と。え。家。聖。賢。あ。ひ。ま



あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
もろうちふ今ありと。いふ。あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
やまひよあ。同七月廿日ふあれりわつや。年七十八  
天の月もあつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ

あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ

あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ

あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ  
あつたましとあせり。はあといふ。素大も真後もあ











りふのしきひんたんしん  
 田舎乃とんはきしあきしめらかられ  
 のひひりころむにあり田舎  
 あけしめはあろのこしを  
 女子田舎はは田舎のひひり  
 女はたんとやうは田舎のひひり  
 あけのまやと箱のまに  
 大月まわさづいあきだげ  
 まはなわいふ田舎のひひり  
 つまこ大原まよと

大原にめらふありや小橋の木



大原



ひえの山

ひえの山に霞をりそよらえのついでにりそ  
ふらあまをりそ文字どあつたかて教山とてあ  
は教の山とけつ也又傳者大師のちよりこれ  
わがたの海とつたは乃も也末乃成のちあ  
わがたの海とつたは乃も也末乃成のちあ  
ひえの山とけつ也又傳者大師のちよりこれ  
わとびりし乃んはのち

拾遺記

我悪のあつたあまのあは  
於乃あつたあまのあは

ひえの山に霞をりそよらえのついでにりそ

おま

ひえの山に霞をりそよらえのついでにりそ

風はあつたあまのあは

伝者大師

伝者大師のあつたあまのあは

初よりあつたあまのあは

唐の今の神のあつたあまのあは

惣れありとてあつたあまのあは

のこしあつたあまのあは

ころしてあつたあまのあは

ころしてあつたあまのあは

無





ひえの山

五卷

十四

下町のちかぢかやとせしひえの山

よりあつてふら<sup>い</sup>た<sup>り</sup>てひえの山乃高海とかな<sup>ら</sup>ね<sup>ば</sup>  
 どのころい<sup>ま</sup>ま<sup>し</sup>つ<sup>ま</sup>い<sup>ふ</sup>げ<sup>い</sup>乃ま<sup>あ</sup>り<sup>さ</sup>そ<sup>と</sup>又<sup>え</sup>ん<sup>ご</sup>大<sup>つ</sup>  
 所乃繪<sup>え</sup>像<sup>ざう</sup>あり<sup>く</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>し</sup>つ<sup>ま</sup>い<sup>ふ</sup>あり<sup>さ</sup>又<sup>え</sup>ん<sup>ご</sup>大<sup>つ</sup>  
 室<sup>むろ</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>し</sup>つ<sup>ま</sup>い<sup>ふ</sup>あり<sup>さ</sup>又<sup>え</sup>ん<sup>ご</sup>大<sup>つ</sup>









日吉

山王 此北の葉神の豊のこころは横のこころをとりてこのこころ  
に豊の一鳥をとりてこころをとりてこころをとりてこころをとりて  
大文おんごん八種也天照若孫のこころなりや

雨まき子にあそこ八幡大がらののもろ

二の文の葉神

名人のうらハ十一面観音

十神神の宮の地蔵

中の七社乃半のゆ子の大成燃

大ゆ事ハ毘沙門

氣比の宮観音

王子の文ハ文殊

八王子ハ子手観音

白山御堂を聖心

三の文ハ菩薩

早尾ハ石神

下八王子ハ巻巻地蔵

聖女ハ巻巻梅





下の七社乃小祿仰ハ孫勅新村  
 魚王子ハ也傑明王  
 岩崎ハ弁才天  
 海乃らるハお初  
 室志子此靈應ハ令對男大日  
 二の之乃靈應ハ日元月光  
 苗社まうりの此傳花の起りて

新行事ハ吉福天女  
 山末ハ摩利支天  
 大宮の靈應ハ大日女

花よ風さりくはひやと夜あま



水うかん

ひくくかんて 飯もききぬ 聖徳の海 かくさう一あ  
きとこかん 名あしくと あさきた けりつとれた  
わきかつぬ 穢身いさきと あさきき くれつとつと  
んくさきた 結さ地ぬり まつあさき せん心とれた  
たゆしゆく うさにはさる 舟あさき 一あさき  
ゆささうと ちよあさきと ちよあさき さうさうり  
あまあさき 竹生ゆきと ちよあさき たのさうさう  
奇あさきん あさきさこの まつ地あり 実つさうさう  
あがんては 魚本あさき ちよあさき ちよあさき  
目乃ささう 月ささきと ちよあさき まささきと

おんえんを 心のうらに びあさき みけつとつと  
あさきさうり 光源氏乃 ものうささき ちよあさき  
ちよあさき ちよあさき ちよあさき ちよあさき  
中風を 穢のちよあさき ちよあさき ちよあさき  
こ光らるるさ ちよあさき ちよあさき ちよあさき  
かん乃うん ちよあさき ちよあさき ちよあさき  
やでさうあり ちよあさき ちよあさき ちよあさき  
ちよあさき ちよあさき ちよあさき ちよあさき  
まがらうん ちよあさき ちよあさき ちよあさき  
せさあさき ちよあさき ちよあさき ちよあさき  
見うさや海 ちよあさき ちよあさき ちよあさき





いさかひに 今又おのひ いそねまは いそか  
 初くあこれ けきたの湯乃 えあしきり いひつらね  
 ねはらそや えねれまを えくく人あ りしありの  
 けうーやと ちきれあを あねくね ねに  
 ねそろくえ あひやまえ さるあう ひに  
 人あねの けのりああたりあまね まけの  
 とせうまや 白ひけのね あしびやと あま  
 あしそまね 人のあまろり まつりと ね  
 と井の寺 けひりなを けけあるに あうり  
 あり長巻 ねとうて のかりこす  
 名とちああこの ねねを 船らりくと あうり



